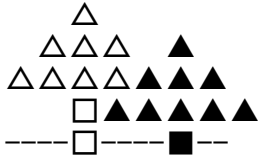


2003/05/01



北海道立林業試験場メールマガジン

『北の森の達人』

Vol. 01 創刊号

読者の皆様へ

北海道立林業試験場メールマガジン『北の森の達人』は、北海道の森林・林業・身近なみどりに関わる情報を皆様に直接お届けするメールマガジンです。

目次

- メールマガジンの創刊にあたって . . . 北海道立林業試験場長 本橋正人
- 定期刊行物ダイジェスト . . . . . 光珠内季報 No. 130  
北海道林業試験場研究報告第40号  
きたのみどり No. 8
- ホームページの紹介 . . . . . 森林とみどりの担い手養成セミナー
- 森林Q & Aで解決! . . . . . サクラ特集
- 今日の達人のささやき . . . . . 緑化樹センター主任研究員 佐藤孝夫

\*\*\*\*\*

■メールマガジンの創刊にあたって

\*\*\*\*\*

当試験場では、森林・林業・身近なみどりに関心のある皆様に、少しでも当試験場の試験研究成果を知っていただくため、最新情報による試験研究成果等を取り上げたメールマガジンを創刊することになりました。

このメールマガジンをきっかけに皆様から試験・研究等に対するご要望などをいただき、北海道らしい森林・みどりづくりの試験・研究を積極的に進めて参りたいと思います。

ご支援のほどよろしくお願いいたします。

\*\*\*\*\*

■定期刊行物ダイジェスト1 . . . 光珠内季報 No. 130 (2003. 3発行)

\*\*\*\*\*

◇品種登録出願中のハマナス類交雑種の特徴 (緑化樹センター 八坂通泰)  
北海道の花である「ハマナス」をはじめとするバラ属の交配により作出した4個体を品種登録出願中です。これら出願品種の花や樹形などの特徴、増殖方法、環境適応性などについて紹介します。

◇樹木の種子はどの深さまで発芽できるか? 一種子吹付けによる法面緑化のために (緑化樹センター 棚橋生子)

道路等の法面の吹付け緑化で木本を導入するため、道内自生の木本6種を用いて、種子はどの深さまで発芽できるかを調べました。その結果、地中3cm以上の深さに埋まると、発芽率は急激に低下し、発芽時期は遅くなり、初期成育も劣ることがわかりました。

◇衛星画像を利用して有珠山噴火の森林被害を調べる (企画指導部 菅野正人)  
2000年3月31日の有珠山噴火による森林整備対策を支援するため、衛星データを解析して噴火直後の森林被害区分図を作成し、さらに2001年の森林被害状況と比較して森林被害の移り変わりを明らかにしました。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kiho/kiho12.htm>

\*\*\*\*\*

■定期刊行物ダイジェスト2 . . . 北海道林業試験場研究報告第40号 (2003. 3発行)

\*\*\*\*\*

◇流域改変による水土流出 一河川生物生息環境の連鎖的変化機構に関する研究 (道南支場 長坂晶子)

治山・治水などの国土保全事業は従来、洪水や土砂災害から土地利用の安全性を確保する手段と位置付けられてきた。しかし土地利用の拡大や高度化は、災害形態の多様化や災害危険域の増大をもたらし、さらに河川流域の自然環境資源の損失を促進したため、河川生態系保全を含めた流域管理手法の構築が要請されている。そのためには、これら一連の現象を流域の物理-生物環境の連鎖的変化として捉え、これまで個別領域で進められてきた河川関連研究を包括的に捉えなおすことが必要不可欠である。本研究ではこれらの点を踏まえ、研究対象領域として、河川改修が強度

に進行した草地化流域と、上流域台地が農地開発された畑作流域を設定し、流域改変による水土流出機構変化ならびに河川生物生息環境への影響波及様式の解明を試みた。

結果として、以下の物理-生物環境の連鎖的変化機構が明らかになった。草地化流域においては、丘陵地への大規模草地開発、蛇行流路の直線化・連続堤防を主とした大規模な治水工事が実施されたことによって、中・下流域の水流出機構が大きく変化し、水貯留機能の減少と水疎通機能の増加がそれぞれ同時期（1975年）に現れた。さらに治水工事によって河畔林が除去された結果、夏期最高水温の上昇と河道内倒流木密度の減少が推定され、この地域の代表的な冷水性サケ科魚類であるサクラマスに好適な環境を悪化させたことが推測された。また畑作化流域においては、畑作化に起因して発生しているガリー崩壊が1980年代に急増しており、農作業形態の変化、経営規模の拡大を反映したものと考えられた。谷底堆積物からも最近22年間の土砂堆積厚の増加が示されたことから、崩壊地の増加と谷底の埋没はほぼ同時期に起こったものと考えられた。さらに、一次谷・二次谷に堆積した土砂が順次下流に流出する傾向が見られることなどから、結果としてもともとあった河床砂礫の間隙を充填してはまり石状の河床形態を形成し、底生動物群集の貧困化をもたらしていると推察された。

北海道の多くの農業地帯の流域構造に変化をもたらした社会的因子として農業基本法（1961～）とそれに伴う1960年代以降の農作業形態や経営規模の変化が挙げられ、研究対象流域でも1970年代後半から流域構造の変化が顕在化していることが明らかになり、特に水土保持機能の低下として現れることが示された。これらの実態を元に、流域管理手法の基本理念として水土保持空間・機能の再生による水土流出機構の復元と河川生物生息環境の創出が提案された。

◇グイマツ雑種F1 幼苗からのさし木増殖法 (林業経営部 黒丸 亮・来田和人)

グイマツ雑種F1 苗木不足の解消と優良家系品種の普及のため、幼苗からのさし木増殖法の実用化を検討した。検討事項は、1) 台木の樹齢、2) さし木の基本技術の検証、3) さし付け方法、4) 床替え時期、5) 定植後の成長である。これらの結果を総合し最適な生産スケジュールを作成し、6) 実証試験を行った。結果の概要は以下のとおりである。1) 台木の樹齢による歩留まりの違いは大きく、樹齢が増すにつれて、発根率の低下、枝性の発生、成長不良などがみられる。このため、台木としては播種後2年目までの実生苗を使用する必要がある。2) 播種後2年目の幼苗の一次枝、主軸をさし付けたときの平均発根率は90%以上と高く、個体による発根率の違いも少ない。台木1本からの採穂数は、約10本であるが、台木を過密に育成させるとさし穂数は減少する。3) さし付けの深さやさし穂のサイズおよびさし穂の着生部位による成績の違いは少ない。さし穂の基部を適葉しないままさし付けても歩留まりに違いはなく、適葉省略によってさし付け工程を2/3にすることができる。発根に要する日数は約80日である。4) 床替え時期をさし付け翌年の春からさし付け当年夏にすると、山出し得苗率は大幅に向上する。そのため、発根に要する日数から逆算すると、さし付けは遅くとも5月までに、台木の育成は3月上旬に開始する必要がある。なお、ペーパーポットを外して裸苗の状態に床替えした方が根系の発達抑制が少ない。5) 定植後5年間の成長は、対照として植栽した実生苗と違いはない。6) さし付け本数の68.5%、床替え本数の79.3%が実生山出し苗の規格に合格し、その際の山出し苗1本当たりの直接経費は約62円であった。以上のことから、グイマツ雑種F1の幼苗からのさし木増殖法は、苗木の供給不足や優良品種普及のための増殖手段として実用化可能と考えられる。

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kenpo/kenpo3.htm>

\*\*\*\*\*  
■定期刊行物ダイジェスト3・・・きたのみどり No.8 (2003.3発行)  
\*\*\*\*\*

- ◇組織培養による緑化樹苗木生産の実用化に向けて  
ー千歳市森林組合との共同研究ー
- ◇道内に植栽されている緑化樹の地域適応性の解明
- ◇石炭灰堆積地の樹木による緑化
- ◇緑化樹Q & Aコーナー
- ◇読者の声  
旭川の緑化樹によるみどりづくりの推移  
(旭川市土木部水みどり公園課緑化推進担当 岡本秀雄)
- ◇緑化相談等の経過
- ◇「緑化樹見本園観察会と緑化教室」開催のご案内

<-刊行物詳細情報->

<http://www.fri.hro.or.jp/kanko/kitam/kitamindex.htm>

\*\*\*\*\*  
■ホームページの紹介・・・森林とみどりの担い手養成セミナー  
\*\*\*\*\*

林業やみどりの環境づくりにたずさわる技術者や、自然教育活動の指導者を養成するため、林業試験場の施設を活用して、新しい情報や技術を普及するセミナーです。講座名と内容は、次のとおりです。

- ◇林業技術基礎講座：測量、測樹などの一般的林業技術
- ◇林業技術応用講座：森林施業、森林保護、立木評価などの高度な林業技術
- ◇緑化技術基礎講座：緑化樹の増殖と維持管理など一般的な緑化技術

- ◇緑化技術応用講座：(1) 緑化樹の維持管理技術、(2) 緑化樹の組織培養技術
- ◇フォレストガイド春季講座：森林の仕組みと機能、森の動植物、森林解説活動など
- ◇フォレストガイド秋季講座：森林の仕組みと機能、森の動植物、森林解説活動など

<-セミナー詳細情報->  
<http://www.fri.hro.or.jp/news/semi.htm>

\*\*\*\*\*  
**■森林Q & Aで解決！ . . . サクラ特集**  
 \*\*\*\*\*

- 【Q1】サクラの増殖法を知りたい。
- 【A1】エゾヤマザクラとチシマザクラは通常タネで増やします。サトザクラ（通称ヤエザクラ）、ソメイヨシノ、シダレザクラなどは接ぎ木で増やします。また、エゾヤマザクラなどでは一部組織培養による増殖が行われています。接ぎ木や組織培養では元の木と同じ遺伝子を持ったクローン苗が作れます。
- 【Q2】サクラの葉に赤くて細長いこぶのようなものがついているが、何か？
- 【A2】ササキコブアブラムシによる虫こぶです。中に小さなアブラムシが群生しています。このアブラムシは秋から春の間はサクラで生活し、夏はヨモギの上で生活します。従って、周囲のヨモギを除去することで、被害を減らすことができます。もっとも、木を衰弱させるほど多発することはありません。
- 【Q3】道北地方で育つサクラ類にどのようなものがあるか？
- 【A3】エゾヤマザクラ、ミネザクラおよびその変種のチシマザクラ、カスミザクラ、ミヤマザクラがありますが、鑑賞価値などからエゾヤマザクラとミネザクラ・チシマザクラが無難でしょう。
- 【Q4】道東地域で育つ八重咲きのサクラにはどのようなものがあるか？
- 【A4】道東地方は寒冷ですので、一部で育っていますが、全般に八重咲きのサクラの生育はかなり難しいと思われます。しかし、釧路地方で育成され品種登録された「クシロヤエ」がありますので、これであれば生育可能と思われます。
- 【Q5】サクラを植栽する場合の留意点を知りたい。
- 【A5】まず、樹種の選定を誤らないようにし、その地域で育つ種類を選ぶことです。また、土が軟らかく、水はけの良い所を好みます。水が溜まりやすい場所は避けて下さい。根はあまり深くまで入りませんが、横に大きく広がりますので、根が伸びることのできる場所を確保して下さい。また、苗木は枝や根がしっかりと張り、元気の良いものを選びます。伸びの少ないもの、枯れ枝のあるものなどは避けて下さい。植栽時期は葉が出る前の春先に植えて下さい。

<-森林Q & A詳細情報->  
<http://www.fri.hro.or.jp/q&a/index.htm>

\*\*\*\*\*  
**■今日の達人のささやき**  
 \*\*\*\*\*

緑化樹センターの佐藤孝夫です。春と言えばサクラでしょう。桜前線は5月上旬頃に北海道に上陸し、最も遅い根室には5月下旬頃に到達します。私達はこれまでエゾヤマザクラ・チシマザクラ・カスミザクラの開花特性の解明、エゾヤマザクラの根の成長特性の解明、サクラ類の組織培養による大量増殖技術の開発などを行ってきました。そして今年度からは北海道に適した新しい品種づくりを行うための試験研究に取り組んでいます。

//////////  
**■発行・編集**  
 北海道立林業試験場  
 〒079-0198 北海道美唄市光珠内町東山  
**■問い合わせ担当**  
 企画指導部森林情報室情報管理科  
 メールマガジン専用電子メール [mmgadmin@hfri.pref.hokkaido.jp](mailto:mmgadmin@hfri.pref.hokkaido.jp)  
**■記事の取り扱い**  
 北海道立林業試験場メールマガジンに掲載された記事を転載することはご遠慮ください。  
 //////////